

六甲有馬ロープウェー六甲山頂駅 グランドホテル六甲スカイヴィラ 風の教会



雨上がりに、新しい地図を与えよう Give a new map, when after rains 金子未弥 Miya KANEKO

突 然現れる道路標識の集合体、矢印が指し示す方向は、アンケートにより収集された複数の人々がそれぞれ「中心」だと思う場所の方向を指し示しています。

六甲山は、江戸時代以前から里山として活用されてきたことから、一時期乱伐によって禿山となりました。その後植林が進むとともに交通インフラなどが整備されて現在の形になりました。作者はこうした経緯を「人々が六甲山に新しい地図を与え続けてきた」と解釈します。そして人々の「中心」を集めることで想像上の地図を加えることができると考えました。オブジェとしてもユニークで印象深い作品です。



マルチプルライティング(六甲山の記憶から) Multiple Lighting (memorise of Rokko) 大崎のぶゆき Nobuyuki OSAKI

ひ とに記憶があるように、土地にも記憶があります。作者は六甲山の記録を時間をかけて調査して本作品を作り上げました。ここ六甲有馬ロープウェーの休止線プラットフォーム、作品が展示されているゴンドラも、阪神淡路大震災前までは表六甲の六甲ケーブル六甲山上駅まで運行されていたものです。作者は自身の視点から世界を認知する方法としてイメージが流動する(溶けてゆく)作品をさまざまな形で発表してきました。記憶もそうしたイメージのひとつであり、不確かで曖昧なものです。捉えどころのない感覚を視覚化するインスタレーションです。



萌怪萌怪者六地藏菩薩立像 もけもけものろくじぞうぼさつりゅうぞう Standing Mokemoke mono Six Jizo Bosatsu (Ksitigarbha)

黒田恵枝 Yoshie KURODA

作 者のアトリエを訪問して目に飛び込んできたのは大量の衣類でした。その廃棄される運命だった古着を作者は皮膚の延長としてとらえ、空想の生き物のパーツを作ります。そしてそれらを繋ぎ合わせることで作品は作られていきます。丹念に布を縫う行為は古着に再び生命を吹き込む行為にも思えます。作者は自身の創作行為と作品を「ぬいぐるみ」と「人形」と「彫刻」を横断するものだと述べています。
立体造形と構成力、デザイン性が織りなす作者の世界観をじっくりとお楽しみください。



がれきに花をさかせましょう Let the flower bloom at the rubble

OBI

建 築家・本間智美と美術家・鈴木泰人によるアーティストユニットのダイナミックな作品です。

OBI は新潟をはじめ世界各地で地域に根ざした作品を展開していて、昨年の六甲ミーツ・アート 芸術散歩 2018 では公募大賞グランプリを獲得しました。本作品は都市が瓦礫の上に成立しているという概念的にも具体的にも認められる事象を作品化したもので、巨大ホテルが撤去された跡地に、神戸市で活動されているさまざまな地域の方々の協力を得て展示されています。素材のオブジェ（瓦礫）も神戸で収集されました。独自の概念による独自の風景から私たちが感じる心の動きを楽しみたい作品です。



End Tab

榎忠 Chu ENOKI

現 在では一般的になった街頭や自然の中での芸術表現ですが、作者はその活動の当初から、美術館や画廊に囚われない形で作品やパフォーマンスを発表してきました。また、金属の廃材を扱い多様な表現を行うアーティストとしても知られています。本作品は、エンドタブという鉄を溶接する際に、その精度を高めるために使用する補助材を丹念に磨き上げ、作品として命を吹き込みました。
このシリーズは 2015 年に高野山真言宗総本山金剛峯寺で発表されていて、本展での展示というのも何かつながりを感じます。
鑑賞者の心持ちを映しいろいろな解釈が可能な作品、建築と呼応する作品空間をお楽しみください。